

長岡・コーヒープレイクの会のご案内



一九九四年冬、私は知り合いの先生たちと教育講演会に取り組んでいました。確か「新学力観と子育て」のようなものでしたが、その取り組みの中で「実は、ウチの子、学校に行かなくて・・・」「あまりにつらくて、胃潰瘍になって・・・」というお母さんたちがあちらこちらにいることに気がつきました。

その後の反省会で不登校が話題になったのですが、

・「こんなのは自分の子だけ」と一人ぼっちで悩んでいて、孤独感がとても強い。

・お母さんたちは「誰か偉い人の講演を聞くのではなく、自分のことをたっぷり話すこと」を求めている。

そこで自由に話せるお茶飲み会のようなのを開いていこうと考えました。「ほっとひととき コーヒープレイクの会」のスタートです。一九九四年三月です。

初めは二カ月おきに集まっていたのですがやがて例会は毎月の開催になり、今は会員が約八〇人程に。

コーヒープレイクの会は、一人一人の気持ちを大切に

に聞きあい、みんなの要求を大切に歩いて歩んできました。定例会の他に、講演会や学習会、映画上映、不登校を経験した若い人を呼んでの交流会を開いたこともあります。

私たちの活動に理解を寄せてくれるあるお寺さんから「そんな二時間ぼっちの話じゃつまらないでしょ。本堂を貸せるから夜中まで話さないよ」と勧められて「夏の集会」を開いたこともありました。（こ本尊様を背中にして、夜明けまで飲みました。ハイ。）

今の私たちの活動を紹介します。

〈定例会〉 毎月第三土曜日午後・年会費 二〇〇〇円

最近の我が子の様子や、親の「気づき」を出し合い交流します。たくさんしゃべってほっと一息つける場と時間です。例会の様子は会報でお知らせします。

〈お父さんの会〉 例会のあった翌週の火曜日夜

コーヒープレイクの例会は、毎回複数のお父さんの

参加があるのが特徴です。ですから父親の立場のこと、年寄りとの関係、夫婦のことなど話が深まることが多いです。そこで「父ちゃんだけの会を作りたい」と去年二月からスタートしました。

子育ては母親だけのものではないといっても、忙しさに振り回されて、ついつい会社人間に・・・というのが実際。我が子の不登校に出会って、初めて子どもの心に向かい合えたというお父さんも多いのです。

「子どももつらいけど、お父ちゃんも結構つらいんだよ」と話し合える場で、もちろん飲み会もしています。

へフリースペース 『スマイル』 毎週火曜日夜

会費は一家族 月二〇〇〇円

「子どもに家と学校以外のもう一つの居場所を」と去年七月からスタート。「学校に行けないけど、何かしたい」「誰かと話したり遊んだりしたい」という子どもにびったりの空間と時間です。

実は五年前にもフリースペースを試みたのですがあえなく失敗。集団で討議して取り組めなかったこと、若いスタッフが進められなくて「お母さん達が順番でお世話係に出ればいいかな」と思ったことが原因だっ

たように思います。子どもにしてみればせっかくやってきたのに「家でもお母さん、ここに来てもお母さん」じゃ魅力ないのも無理がない。

昨年二月に熊谷さんを囲んで学習会を持った時、フリースペースが子どもたちの生活を充実させ、その満足感が力になることを聞きました。その話し合いで「やっぱり長岡にも欲しいね」と数人が集まり、フリースペース作りの取り組みが始まったのです。

①子どもはどんなことを望んでいるのか出し合う。

②新津の「はっそう会」を見に行き、イメージを持つ。(新津のみなさんお世話になりました)

③学生のスタッフを捜す。

④スタッフを含めみんなの意見を出し合い、創りあげていく。スタッフは研修する。

と進みました。

スタッフは、子どもと年齢が近くて親しみやすい学生さん達。誠実で真っ直ぐな気持ちを持つ彼等の姿は、実は私たち大人も勇気づけてくれます。

毎週思いっきり遊んで、楽しい時間が過ぎていきます。春は卒業進級をお祝いする会、四月は県主催の植樹祭に参加して、外で遊ぼうと計画しています。

(たぐち たか・長岡市)